

渋谷区『新しい学校づくり』整備方針 01



渋谷区教育委員会では、渋谷区の未来像である「ちがいをちからに変える街。渋谷区」を目指して、子供一人一人が自分の個性を伸ばし先進的で柔軟な考えを育むための教育に取り組んでいます。また、学校内外におけるさまざまな教育資源を活用して、未来をよりよく生きるための力を身につけることのできる『未来の学校』をつくり、学校教育と社会教育の充実を図っています。

整備方針の根底となる3つの柱

整備方針の根底となる考え方として、以下の3つの柱を軸としたコンセプトを定めています。

**新たな学びの場**  
Learning Place  
つながる・広がる・深まる  
学びの場

**環境への配慮**  
Environment  
最先端の  
環境モデル拠点

**地域コミュニティの拠点**  
Community Place  
地域をつないで交流を生み  
シビックプライドを育む

渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）における基本方針 02

猿楽小学校と鉢山中学校は、令和4年5月に策定した「渋谷区『新しい学校づくり』整備方針」に基づき、**鉢山中学校敷地にて小中一貫教育校として整備することを計画しています。**基本計画の作成に際しては、新しい学校の姿について、関係者の皆様に情報共有をするとともに、意見交換を行うために、学校長やPTA、地域団体等の代表の皆様で構成された「渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）建て替え準備委員会」を設置し、検討を行ってまいりました。

1. 立体的な敷地形状を活かした教育環境の実現

- 限られた敷地面積の中で、校庭面積をきちんと確保する計画とし、安全で使いやすく、9年間を通じて子供たちがのびのびと活動できるような環境を整備します。
- 敷地の高低差を活かして、アクセスしやすい建物配置とバリアフリー化が両立した計画とします。

2. 子供たちの安心・安全な学校生活の確保と、利便性に配慮した地域開放エリアの両立

- 児童・生徒と地域開放の動線を明確に分離するなど、子供たちの安心・安全の確保を最優先したセキュリティ計画とした上で、利便性に配慮した地域開放エリアを計画します。
- 体育空間をできる限り確保し、異学年交流や協働的な学びなどの多様な教育活動や地域の活動に対応できる計画とします。

3. 小中一貫教育を体現できるラーニング・コモنزの設置

- 立体的なラーニング・コモنزや、開かれた交流学习空間を用意するなど、1年生から9年生を繋いだ学習や交流促進が出来る学校とします。

各エリアの機能構成と動線イメージ ラーニング・コモنزのイメージ



※青枠で囲われた範囲は地域開放エリアを示します



出典：青山キャンパス

ラーニング・コモنزとは

子供達がタブレットや本で情報収集しながら主体的に学べる共有空間です。一人で集中する学び、グループで協働する学びなど多様な学習スタイルに対応しています。

渋谷区小中一貫教育校（猿楽小学校・鉢山中学校）の建て替えスケジュールについて 03

和暦	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度～
西暦	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030～
鉢山中の生徒	既存校舎を利用					仮設校舎を利用 (青山キャンパス)	
猿楽小の児童	既存校舎を利用						
鉢山中の建て替えスケジュール	基本計画		基本設計・実施設計 (予定)			解体・建設(予定) ※設計完了後に確定	

※建て替えスケジュールは現時点での想定であり、今後の詳細検討により前後する場合があります。

基本計画

基本計画の詳しい内容は、右記QRコードからご覧いただけます。  
渋谷区『新しい学校づくり』整備方針～学校施設の未来像と建て替えロードマップ～  
新しい学校づくり|渋谷区ポータル



問い合わせ先

渋谷区教育委員会事務局 教育政策課 学校施設整備第一係、第二係、第三係  
TEL：03-3463-2795 Mail：sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo

## 小中一貫教育校の整備に係る検討の経緯

# 04

### （1）適正な学校規模に関する基本的な考え方

・学校の教育環境は、様々な条件により総合的に整えられるものであり、**学校の規模及び適正配置を図ることは、子供の成長にとって望ましい教育環境を構成する重要な要件**である。  
 ・学校規模や配置などの**物理的側面が、子供同士の人間関係、学校としての教育指導面、学校運営面に様々な影響を与える**ことが考えられる。

・区内において、小規模校と大規模校の二極化が見受けられる状況において、**学校施設の改築等と学校の適正規模・適正配置を一体的なものとして考慮する必要がある**。  
 ・未来の子供たちにハード・ソフトの両面からより良い教育環境をつくるため、学校の適正な規模と配置等の**教育環境向上の視点を取り入れたものとし、該当校だけではなく、周辺の学校を含めて考慮した計画**にすることが必要である。

### （2）適正規模を図るための再配置の検討

児童・生徒数の将来推計を基に、小規模校化（12学級未満）が見込まれる小・中学校の再配置を検討しました。また、集団規模の確保のため、小学校同士・中学校同士の統合に限らず、校種を超えた一貫校化の検討も行いました。

#### 適正規模の目安と検討のポイント

➤ **法令上の標準：小中学校ともに12～18学級**

小学校：1学年当たり**2～3学級**

中学校：1学年当たり**4～6学級**

➤ **渋谷区の通学距離の基準：**

小学校**1.0km**程度、中学校**1.5km**程度となるよう設定

➤ **小・中学校区の整合性や地域コミュニティとの関係、安全に通学ができるような環境にも配慮**



### （3）Cブロックの検討結果

将来推計では、鉢山中学校が小規模校化（12学級未満）が見込まれます。このため、子供の教育環境の改善・向上を図り、小中全体として集団規模を確保するため、猿楽小学校と鉢山中学校を小中一貫教育校として整備することにしました。

**猿楽小学校と鉢山中学校を小中一貫教育校として整備することで、将来にわたって適正な集団規模を確保し、子供たちが豊かな学校生活を送ることが期待できる。**

#### 【参考】令和14年度に開校した場合の利用校舎

※開校年度は今後の設計段階で詳細に検討していきます。開校年度により仮設校舎利用期間も変更となります。

青山キャンパス仮設校舎						猿楽小・鉢山中新校舎				
R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5
2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6
3歳	4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1
4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2
5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3		
小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3			
小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3				
小4	小5	小6	中1	中2	中3					
小5	小6	中1	中2	中3						
小6	中1	中2	中3							
中1	中2	中3								

※鉢山中学校の生徒のみ仮設校舎を利用します。猿楽小学校の児童は、小中一貫教育校の開校までは、既存の猿楽小学校に通います。

■ 既存校舎 ■ 仮設校舎 ■ 新校舎

## 小中一貫教育について

# 05

### 1. 小中一貫教育とは

小中一貫教育とは小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間の見通しをもって系統的な教育を目指す教育です。渋谷区の小中一貫教育における教育課程（カリキュラム）は、「小学校6年間、中学校3年間」を枠組みとしながら、4年－3年－2年のように学年段階の区切りを緩やかに設けそれぞれの段階における指導体制を整えていきます。



渋谷区がめざす子供像の実現

### 2. 小中一貫教育で期待される効果

- **異学年交流による多様な学びと関わり**  
日常的な異学年交流は、年齢などの違いを超えて学びあう「協働的な学び」を生み出します。
- **学びの連続性を確保**  
教員は、児童・生徒の成長を継続的に把握することができ、個に応じた支援ができます。
- **教職員の連携による子供を見守る体制**  
教職員が小・中学校の枠を越えて連携し、子供たちの成長を長く見守る体制となります。また、教職員数が多くなるため、一人ひとりの子供に対して、より丁寧な対応ができるようになります。

### 3. 小中一貫教育校化に伴う主な課題と対応

- 【課題】小中一貫教育校に中学校から入学する生徒の心理的な負担感が出るのではないか  
⇒学年段階の区切りは「小学校6年間、中学校3年間」の枠組みを基本とするため、教育課程上の問題が生じることはなく、安心して学習を継続することができます。また、学区域内の小学校間で交流を多く持ち、中学校入学前から関わりを持てるような教育活動を進めます。
- 【課題】小学校高学年のリーダーシップ育成が阻害されるのではないか  
⇒学校行事での役割分担など小学校高学年が主導する場を意図的に設けたり、小・中の卒業式の別日開催などを通して、小学校高学年が責任感や自立心、自覚を高められるような取組を行います。
- 【課題】人間関係や相互評価が固定化されてしまうのではないか  
⇒児童・生徒数や教職員数の増加により、多様な関わりが生まれ、社会性育成の機会が広がります。

### 4. 小中一貫教育校整備に伴うその他の対応

- **校名・校歌・校章**  
開校の2年前を目途に検討を始める予定です。地域のご意見を聞きながら校名を検討し、学校設置者である区が決定します。卒業生の思い出と歴史を尊重しつつ未来の児童・生徒のために新たな小中一貫教育校のビジョンを構築することを目指し、慎重に検討します。
- **学校選択希望制**  
鉢山中学校の通学区域は小学校から小中一貫教育校を選択できるよう検討を行います。導入時期については、新校舎完成時の小学校6年生が、小学校入学前に中学校選択を見据えて小学校選択ができるよう検討します。
- **学校の特色、教育内容、教育目標など**  
学校の特色は、区の教育政策の方向性を踏まえつつ、区立中学校8校の状況や地域特性等を考慮し、教育委員会において学校長との協議のもと総合的に判断して設定します。教育内容や目標は、各学校ごとに、学習指導要領や区全体の子供の課題等を踏まえ、地域の子供の長所や課題を踏まえ設定します。
- **小学校跡地の活用**  
小学校跡地は、周辺の学校の建て替えのための代替校舎として利用します。代替校舎としての利用終了後は、第2グラウンドとしての活用を想定していますが、今後の地域のニーズ等を踏まえ検討します。具体的な検討は、代替校舎としての利用が終了する数年前からとなる予定です。

## 基本計画

基本計画の詳しい内容は、右記QRコードからご覧いただけます。

渋谷区『新しい学校づくり』整備方針 ～学校施設の未来像と建て替えロードマップ～ | 新しい学校づくり | 渋谷区ポータル



## 問い合わせ先

渋谷区教育委員会事務局 教育政策課 学校施設整備第一係、第二係、第三係

TEL：03-3463-2795 Mail：sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo

学校施設の規模

06

校舎棟

用途 : 学校(小学校・中学校)  
 建築面積 : 約 3,000㎡  
 延べ面積 : 約 12,300㎡  
 階数 : 地上 4 階 / 地下 1 階  
 建築物の高さ : 20m程度  
 構造 : 鉄筋コンクリート造 (想定)

体育棟

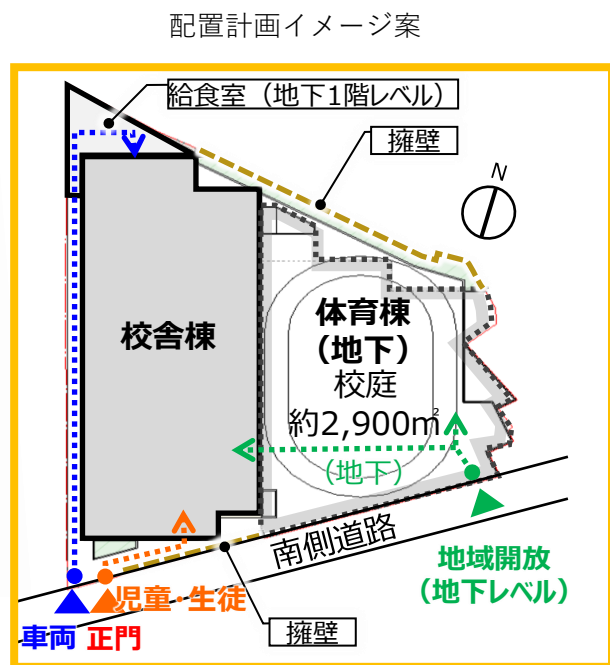
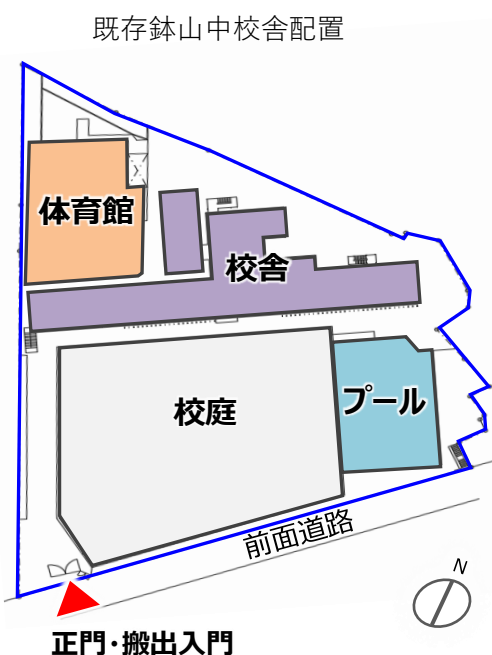
用途 : 学校(小学校・中学校)  
 建築面積 : 約 110㎡  
 延べ面積 : 約 4,200㎡  
 階数 : 地上 1 階 / 地下 3 階  
 建築物の高さ : 4 m程度  
 構造 : 鉄筋コンクリート造 (想定)

配置計画

07

新校舎配置の考え方

- 建て替え準備委員会において、配置パターンと評価項目により比較しながらメリット・デメリットを紹介し、意見交換を行いました。最終的に敷地の西側に校舎を配置し、校庭の地下に体育エリアを配置する案を選定しました。
- 選定した配置案は、校庭面積を比較的整形に確保できることや、教室や管理諸室を集約配置して、運用しやすく良好な教育環境を実現できる計画です。



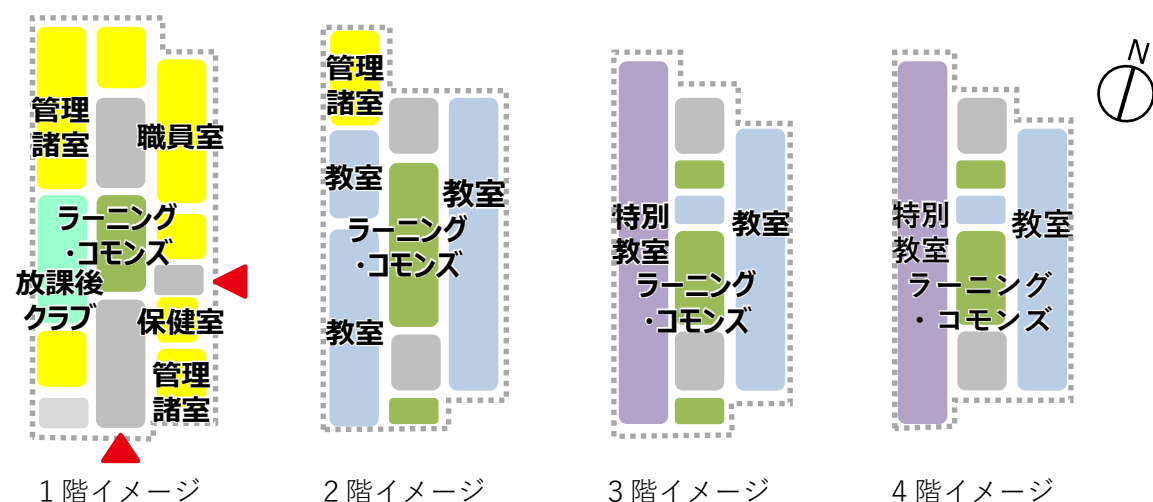
学校施設のゾーン構成

08

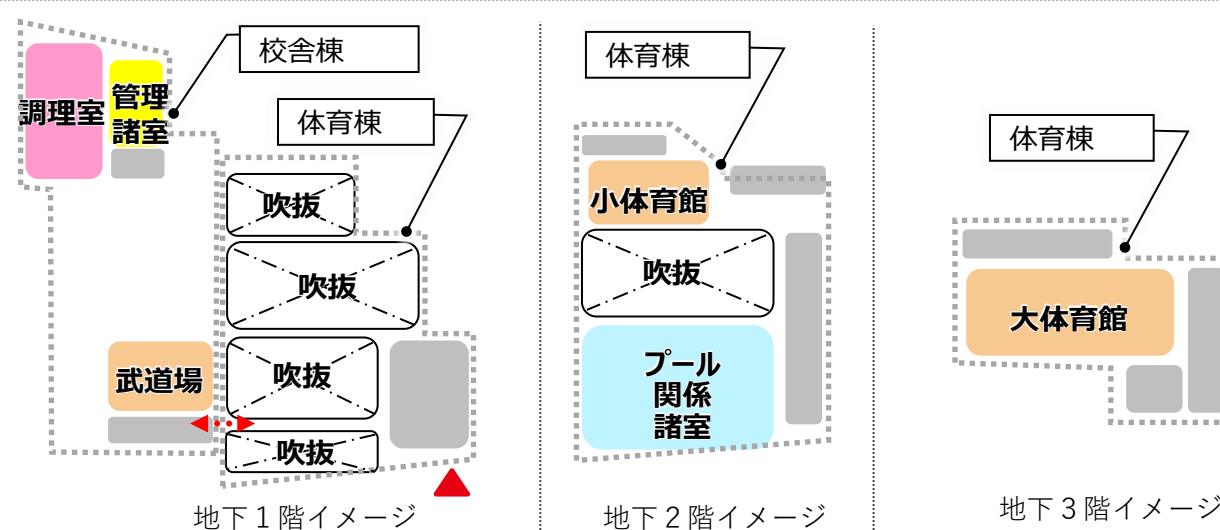
新校舎の機能配置の考え方

- 新校舎の中心にはラーニング・コモンズを配置し、その周囲に普通教室や特別教室などを配置することで、多様な学習スタイルにも対応できる場とすることを目指します。

校舎棟



体育棟



【凡例】

- 教室 (普通教室・少人数教室)
- 特別教室 (特別支援教室・特別支援学級等)
- ラーニング・コモンズ・図書スペース
- 特別教室
- 管理諸室
- 給食関連
- 体育関連
- プール関連
- 放課後クラブ
- 階段・EV・トイレ等
- 主出入口

基本計画

基本計画の詳しい内容は、右記QRコードからご覧いただけます。  
 渋谷区『新しい学校づくり』整備方針 ～学校施設の未来像と建て替えロードマップ～ | 新しい学校づくり | 渋谷区ポータル



問い合わせ先

渋谷区教育委員会事務局 教育政策課 学校施設整備第一係、第二係、第三係  
 TEL : 03-3463-2795 Mail : sec-gakko-seibi@shibuya.tokyo